

「当たり前」を守る税

所沢市立所沢中学校

三年 定木 愛葉

炊事、洗濯、風呂。農業、産業。私たちの暮らしを幅広い面で支えているのが「水」。日本では、蛇口をひねると綺麗な水が出てくる。だから多様に使うことができるし、私もそのような水が当たり前に出る環境で生活している。

しかし、「綺麗な水が出る」という私たちの日常が、日常ではない国もある。日本の常識では考えられない世界だ。この現実を知り、私は世界の水の衛生状況を調べてみることにした。とても驚いた。今世界では、約六億人もの人々の下に安心して飲める水がなく、そして、その半数を占めるアフリカ諸国の人々は、池や川、野ざらしの井戸などを飲み水として使うことが分かった。しかも、そのことが原因で毎日八百人の子供達が命を落としていることも分かった。命を落とすかもしれない水を飲まなければ生きられない。本当に不条理だ。しかしその不条理が彼らの日常となっている。

なぜ、これ程にも私たちと彼らの当たり前は違うのだろうか。日本では、毎日安全な水が使用できる。それはなぜか。理由の一つとして税金があった。日本では、川の水をきれいにする機械の設置や水道管の整備に税金が使われていた。一方、アフリカでは税金の制度がなく公共の整備を充実させることができない。だから、悲劇が起きてしまうのだと思う。「税金が高くなる」と

いうニュースをよく耳にし、税金はあまり良くない印象だったが、毎日おいしい水が飲むことができるように「私たちの生活に必要不可欠」な存在だということを学ぶことができた。

税金は、自分自身を守るものである。今回の課題で、税金について知り、税金の大切さを学ぶことができて本当によかった。また世界には、様々な環境で暮らしている人たちがいるということを知った。私たちがあまりすほどに使っている「水」。私たちがこぼしたり、残したりしたその一滴は世界の誰かが死にもぐるいで得た水の量と同じかもしれない。誰かが大切なものを捨てても飲みたかった一滴かもしれない。そんなことを心におきながら、「当たり前」を大切に生きていきたい。